

市議会議員 泉和弥の活動報告書

IZUMIファイル



VOL. 1
2011.12.

泉かずや事務所 ☎918-8227 福井市次郎丸町36-32 TEL (0776) 53-4659 mail:izumikazuya.civ@gmail.com



泉かずやの目指すもの

私たちの住む福井市、私たちの住む地域の発展はじつとしていては何も変わりません。
行政を頼りにしても前へはなかなか進みません。

住みよい福井市、地域を自分たちの手で育てていく、皆さんとともに新しいまちづくりを考え、提案していきます。

こんにちは！
いずみ
泉 かずやです。

皆様からたくさんのご支援をいただき、福井市議会議員としての一歩を踏み出してから、早いもので半年が過ぎました。日々勉強と新しい経験の毎日ですが、今までに培いました医療福祉現場やまちづくりの経験と知識を生かしながら、活動させていただいております。これからは、精通する分野を広げ提言できる、議員をめざし活動してまいります。

今後とも応援してくださっている皆様のご支援、ご指導を賜り、勉強させていただきながら、皆様の負託に応えるよう邁進してまいります。



泉かずや
プロフィール

昭和35年6月12日 福井市次郎丸町に生まれる。
昭和51年3月 福井市立藤岡中学校卒業
昭和54年3月 福井県立羽水高等学校卒業

昭和58年3月 京都産業大学卒業
平成23年4月 福井市議会議員初当選

住民力
ひとりひとりが、
地域を育てる。



農業

地域特性を生かした農業の再生を目指します

効率だけでなく付加価値を高めるための生産、加工から販売までを手がける農業都市として飛躍するために、地域特性を生かしたブランド化を目指します。

年間360万人が訪れる宮城県内の「道の駅」や山形県の農産物直産市場、和歌山県の農業法人を訪れ、特色ある生産、販売、加工、流通手法について調査研究してまいりました。議会において福井市の農産物、特産物が一目でわかるホームページ等の情報媒体の改善を求めました。



福祉

医療福祉の充実を図り、福井型ケアサービスを提案していきます

市民が安心して住むために住民主体の地域福祉活動など、それぞれの地域にあった福祉が実現できる環境を整備します。

議会において来年度から始まる福井市地域福祉計画、老人保健福祉計画、介護保険事業計画に関する質問と「認知症ケアの推進」「いきいき長寿よろず茶屋の運営」について提言をしました。



少子化

子育て環境の充実と地域住民によるふるさとの素晴らしさの発信を応援します



議会では市内、認定こども園の研究と総社市の「子育て王国そうじゃ」の取り組みを調査しました。

議会ではどんなことをしてきたんやろ

防災

地区防災がより厚みのあるものとなるように取り組みます

市民の防災意識が高まるなか、地区防災組織には大きな役割があります。各地区の防災組織が、より厚みのあるものとなるよう今まで以上に市、地域各種団体との連携を強めていきます。

議会では「災害時要援護者避難支援制度」に関する質問のほか、5月に東日本大震災の被災地に救援物資を輸送、10月に宮城県仙台市、石巻市、福島県南相馬市において行政対応を調査研究しました。また新人議員による原子力発電所視察を行い、安全対策と危険性、そして今後の電力供給の在り方について見識を深めました。



地域交通

地域の足として本当に必要な形で実現できる交通手段を提案します

通学や買い物、通院など身近な交通手段として利用できる形を周辺地域も含めた形で検討していきます。他市町の地域交通利用状況を調査現状分析を行ってきました。また低炭素社会へシフトするための電気自動車バス、EVレンタカーなどの利用を進めるため、市の取り組み状況と今後の方向性を議会で質問しました。



「開かれた議会」「議会の監視機能と政策立案の向上」を目指します

来年6月をめどに議会基本条例を定め、議会報告会の開催や市民との意見交換会、広報の強化を行い、議員自らの議決、政策決定に責任を有し、同時にそれを市民に説明する責務を果たしていきます。



一般質問・委員会質問から

泉和弥は、教育民生委員会、予算特別委員会、安全安心なまちづくり特別委員会、議会改革特別委員会に所属しています。

質問

2005年から2025年の20年間に生産年齢（15歳から65歳）が16%減少する一方で、介護職員数は倍増すると云われています。医療や介護、福祉の人材確保、育成が必要と考えますが、御所見をお願いします。

▼福祉保健部長

介護保険法の規定に基づき国は基本方針を、県は支援計画、市は事業計画を策定することになっています。介護職員の給与水準向上など処遇改善、介護職員の能力や経験に等に応じたキャリアパスの整備などを掲げる予定です。人材確保や育成については、県と市の役割分担のもと両計画の中で図られていくものと考えています。

質問

国の政策が施設介護から在宅介護へと転換する中で、依然として要介護者やその家族が施設介護を望む声が高く、その市民のニーズに反して、国は在宅介護に重きを置く政策を進めていますが、福井市なりに市民のニーズに応じた計画を立てる必要があると思いますが、市長の御所見をお願いします。

▼市長

非常に難しい問題です。気持ち的には自分の家で生活したいという思いが強いと思います。しかし、在宅介護には独自の問題がはらんでいます。一方で、介護保険の保険料という観点から見れば、施設型の福祉を広げれば広げるほど経費がかかるアンバランスがあります。国の指針といふにバランスをとるか議論を整理する必要があります。

質問

クリーンセンター改修事業により処理施設の寿命を延ばし、安定したゴミ処理が行えるようになるということですが、26年度に改修工事が終了しますが、寿命は何年伸びますか。

▼市民生活部長

改修が予定通りいきますと、37年度までの耐用を見込んでいるところです。

質問

クリーンセンターの余熱を利用した小さな発電設備があり、タービン発電機の改修計画も予定に入っています。再生可能エネルギーが注目を集めていますが、改修によって、さらに有効に使えるようになりますか、お伺いいたします。

▼市民生活部長

ゴミ焼却によって発生する蒸気を利用して発電を行っています。この電力で施設稼働に必要な電力を賄っておりますほか、施設内の冷暖房、給湯利用による温水プールの熱源としても供給しています。また発電量が増加し年間約360万キロワットアワー程度の売電も可能と見込んでいます。

質問

本市では48地区の自主防災組織の連携を図るために、自主防災組織連絡協議会を結成し、非常に活発に活動されている地区もみられます。各自主防災組織連絡協議会において自治会長ではない専任会長を置かれているところもあり、そういう会長宅にも防災同報無線の戸別受信機を設置してほしいとの要望があります。新設の計画はありますか。

▼市民生活部長

災害時に住民避難の役割を担っていただく自主防災組織連絡協議会の専任会長は13名で自治会連合会長との兼務は35名です。今後専任会長を置いている場合には会長宅にも設置をしていきます。



■お知らせ

本会議・各常任委員会・各特別委員会とも傍聴が可能です。また、本会議・予算特別会議の模様はデジタル092chの「ふくチャンネル」で生中継及び録画放送されます。

住民力
ひとりひとりが、
地域を育てる。

ホームページもご覧ください

泉和弥

検索

<http://izumikazuya.jp>

